

頭を強く打てば、意識がなくなることは多い。が、意識が正常でも、もう大丈夫というわけにはいかない。

頭部外傷による「急性硬膜外血腫」という病気がある。速く見つけて早く手術できれば後遺症は少ない。が、それでも、死亡率は約10%だ。この病気では、頭を弾打しても、意識がなくならないとか、意識がなくなってもすぐに回復することがある。

その後、正常だった意識レベルが少しずつ悪くなっていくのが急性硬膜外血腫の特徴である。意識がはっきりしているひとが、意識障害を起こしてくるまでの時間帯を「意識清明期」と呼び。受傷後3時間からの時間であることが多いという。

では、なぜ意識清明期が存在するのだろうか。頭を打って頭蓋骨を骨折したりするとうつ頭蓋骨に張り付いている硬膜の血管が、頭蓋骨に張り付いている硬膜の血管が傷つく。破れた血管から出血が始まる。出血がどんどん続けば、やがて硬膜と頭蓋骨の間に血腫（血液の塊）ができてくる。

大きくなった血腫のため、その分、頭蓋骨の中で脳圧が高くなる。やがて脳圧が限界を超えるると、脳ヘルニア（脳の一部が押し出された状態）が起きる。その脳ヘルニアによって中脳という意識の中枢が圧迫さ

れ、それまで正常だった意識が障害されてくるのだ。

さて、頭部外傷で、意識がないとかもうろうとした状態が続けば、患者さんは直ぐに病院に搬送されるだろう。意識がはっきりしている場合は、家などで経過をみることが多い。その場合、家族は、患者さんの状態をよく観察していなければならぬ。変なことを言ったり、したりしないか？刺激がないとすぐに眠ってしまうことはいないか？頭痛の増強や嘔吐、手足の麻痺などないか？等々である。少なくともその間は厳重観察。24時間は、一人にさせない方がよい。できるかな？

（石黒修三いいしへろクリニック・脳神経

外科医…11/28 北國新聞掲載）